

果実販売動向

販売課 米澤 松太



1月の果実動向は数量減の単価高で推移しました。みかんについては、末端での売り場は確保されていますが、年内から荷動きの緩慢な状況が続いたことにより、入荷は少ないものの流通在庫を抱えており、弱保合いでの推移となりました。いちごについては、暖冬傾向から一転して気温が低下したことや、悪天候が続いたことによる着色不良、端境期により不安定な入荷となり、引き合いの強さから概ね保合いでの推移となりました。りんごについては他県産が一部を除き概ね切り上がり、年末年始で仲卸在庫も整理されていることや連休を控えていたことなどから安定した荷動きとなり、堅調な価格で推移しました。しかし、中旬以降、春節（輸出）向け対応が終了し、国内向けへシフトしたことにより、越年在庫は少ないものの上位等級の多さと単価高から荷動きは緩慢となりました。特にサンふじの大玉果については輸出向

けの残量から比率が高いことや、王林についても順調な入荷のなか売り場は狭く、価格は下げ基調の展開となりました。その中で1月中旬から(谷)西友(関東地区)5店舗、(株)三越伊勢丹新宿店を皮切りに全国で消費宣伝を展開し、売場の拡大に努めています。

今後、いちごについては増加傾向にあり、食味不良とこれまでの高値反動から一転して弱保合いの状況にありますが、末端では積極的な企画展開や売り場拡大も進んでいることや、総体的に数量減の傾向にあることから、価格については概ね保合いでの推移が見込まれます。中・晩かん類については、荷動き自体は緩慢ですが、引き続き入荷が多くないことから市況は保合いで推移する見込みです。輸入果実については、バナナ、ぶどうを中心に昨年より多く入荷され、比較的値ごろであることから売場の中心としての展開が予想されます。りんごについては産地

在庫の少なさから入荷量は少ない見込みではありますが、一定の流通在庫と売場の狭さから荷動きはさらに停滞が予想されます。引き続き消費宣伝会の実施や、企画展開により売り場を確保し、相場の維持を図ります。



国内外にて消費宣伝会で売場確保に努める

単価は全農あおもりデータ（1/28累計）、在庫数量は県りんご果樹果作成（12月末）

品 種	サンふじ	ふ じ	王 林	ジョナ	む つ	その他	合 計
単 価 (円)	3,231	5,229	3,079	3,117	4,778	2,984	2,946
前 年 比 (%)	114	95	105	114	93	107	105
在庫数量 (ト)	104,482	33,654	21,155	17,410	642	10,498	187,841
前 年 比 (%)	76	110	104	79	85	91	84